



令和元年 NO.01

皆さまご無沙汰しております。
おいぶん発行が遅れてしまいました。
「もうやめたんがなま」と、
ご心配いただいております皆さま、
そして「忘れてたわ〜!」という皆さまにも、
さらにパワーアップしてお届けしたいと思います!!



わたしが あるために

洋服の整理をしました。一枚買った一枚捨てること!がルールの我が家ですが、まあもう少し着古してからね、となかなか捨てられないワタシ笑。でも、収納スペースは限られているわけで…。まずは一年以上着てない服をピックアップしました。するとほとんどが、昨年も捨てる候補に登った服ばかり。しかも着古したのではなく、買ってから一、二度着ただけのキレイなものばかり。買った時は、とても気に入っていたのです。デザインもかわいくて色も好きで着るのが楽しみでした。

本当に感謝しかありません。ここ数年、状況が変化する中、経営者としての自分、家庭での自分、業界での自分と、それぞれの立場でのさまざまな選択を迫られる機会が多くなってまいりました。きつと皆さんもそうだと思います。思わぬアクシデントに見舞われた時、また、新たなタスクが生まれた時など、その事態に応じているんな角度から検討し、取捨選択をされるのではないのでしょうか。そう、明日、いつもと同じ明日が来るとは限らない。

ただど着てみると何かおかしい。似合わない、というのも違う、何か違和感を感じて、また今度着よう!なんかなあ…を繰り返して、でもまたいつか着るだろう、そう思ってしまっ込んでいたのです。実は今年に入ってから、お仕事の納期を延期していただいたり、やむを得ずお断りしないといけない状況が続いていました。ご無理を聞いていただいたお客さまにはご迷惑をおかけしたのですが、

の優先順位を今以上に考えるようになったのです。ではその判断基準は何か。それはもう、「直感」に近いものなのかもしれません。「好き」とか「大切」だけでなく、「必然」かどうか。つまり「わたしらしくないこと」はしない、ということ。仕事の大小、条件がいい悪いではありません。「それをしてる自分を好きでいられるかどうか」が、最終的な判断基準になっているような気がします。そして同時に、お客さまにとっても

価値あるもの、それをする目的や意義があるものだけをご提案していくべきだと思いました。プロジェクトがゴールに達した時、お客さま自身に、やってよかった、作ってよかった、これってウチらしいよね!と感じていただけるものを共に作り上げていきたいです。

着なかつた服は、それを着ている自分が自分ではない感じがしていたのでしょう。「その服が好き」というのは違うのです。自分らしくないことは、きつと自分にしかわからない。無理をしている自分は、やはり好きにはなれないのです。今手元にある服たちは、それを着ている自分がとてもわたしらしく、自分を好きでいられるものばかりです。流行りのものではないけれど、少々くたびれてはいるけれど、今のわたしをいちばんよく見せてくれるものだと思っています。

時代はものすごいスピードでめまぐるしく変化し続けています。ですが、この先どんなに向かい風が吹こうとも、直感を信じ、流されることなく、いつも自分を肯定できる生き方をしたい。そして思いを共にするお客さまにもそう感じていただけるよう、選んだ時間を丁寧に過ごしていきたいと思えます。令和元年、新しい時代に向けての抱負!遅いけど笑。



デザインと イラストと きかく 小路好美

制作ルーム / 大阪府南河内郡河南町 148-2
www.d-i-p-shouji.com
mail@d-i-p-shouji.com
デザインとイラストときかく FB ページ(作品)/
https://www.facebook.com/y.shouji1214

「選ぶ」ことは「捨てる」こと

実は漫画家を目指していたことがありました。何度も東京に原稿を持ち込み、念願の「担当さん」が付いてくださいました。登場人物やストーリーを考え、絵コンテを描いた段階で送り、OKが得たら初めて原稿用紙に下書きできるのですが、まあその絵コンテがなかなか通らない。描いてはダメ出しの繰り返しでした。途方に暮れるわたしに、ある時担当さんはおっしゃいました。「もし、あと一本しか描けないとしたら、小路さ

んは何を描きますか？」ガツンと殴られたような気持ちでした。いっぱい描きたいことはあるし、ダメなら何度でも描く、そう思っていたのです。そんな生半可な気持ちでは人の心をつかめないのだと、担当さんは言いたかったのでしょう。あと一度しかチャンスがない、そんな覚悟がいるんなものを削ぎ落とし、本当に自分にとって譲れない大切なものに辿り着くことができるのです。残念ながら漫画家にはなれませんでした。今でもわたしの中で生きる大切な言葉です。

